

在宅医療連携拠点事業成果報告

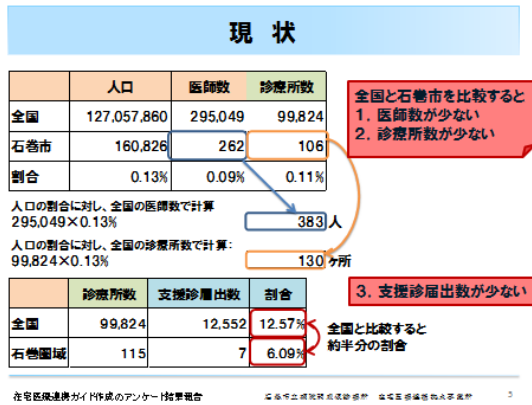
拠点事業者名：石巻市立病院 開成仮診療所

1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

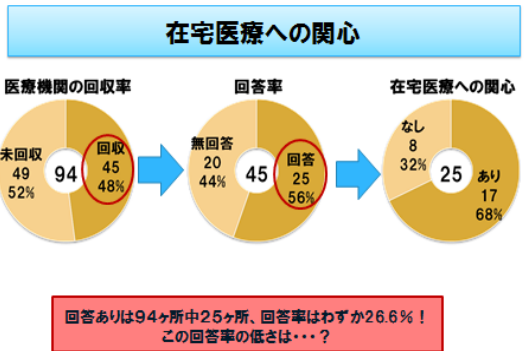
事業を開始するにあたり、「地域資源マップの作成」や「連携課題に対する解決策の抽出」に関連し、医師会・薬局・介護関連の各種機関に問い合わせたが、在宅医療に関する情報はほとんどなく、石巻の地域診断が行われていない状況であることが分かった。

拠点事業が介入する以前の石巻市の医療資源は全国と比較すると、以下のような現状であった。

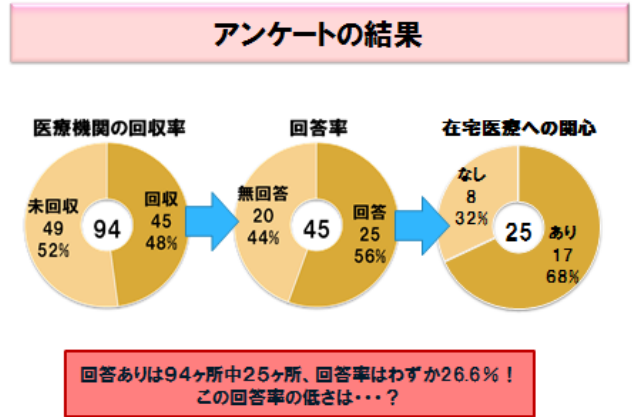
- ・医師数が少ない
- ・診療所数が少ない
- ・支援診療出数が少ない



市内の医療機関へのアンケート調査からは、在宅医療への関心の低さが浮き彫りになった。



介護事業所などへのアンケート調査からは、多職種連携の課題や勉強会のニーズが把握できた。



在宅医療推進に当たっての課題と考えられたことは『人材育成』であったが、医療機関に関しては、代々続く開業医が多い、後継者不在、医師の高齢化という特徴もあり、在宅医療に従事する人材育成が難しい状況であった。被災前からの課題に加え、被災後は医療機関数も減少、以前の水準も保てていない状況にあった。

**医療機関に関する特徴**

- 問題点
    - アンケート結果から
      - 在宅医療に関心のある医療機関が少ない
    - 被災以前から
      - 人口比における医師数が少ない
      - 後継者不在
      - 医師の高齢化が明らか
- ↓↓↓  
在宅医療に従事する人材育成が難しい  
そこで！！



そこで拠点事業としては被災後の医療再建の中での在宅医療システム(地域包括ケア)への足がかり

をつくることと、そのための『将来的な在宅医療従事者の増加』という次世代の育成に重点をおき、医師・医学生・看護学生の研修を随時受け入れることとし、学生セミナーも開催した。

その他にも、在宅医療自体を推進・普及させる目的で、当事業所 所長である長 純一医師が、拠点事業受託当初より積極的に活動し、多数の講師を務めた。

### 在宅医療従事者増加をめざして

- 実習受け入れ、セミナー開催等
  - 研修医、医学生、看護学生の实習 計26名
  - 学生セミナーの開催(4回) 計57名
  - 学会での講演、研修会での講師 等を積極的に実施
- ▶ 受け入れの問題点
  - 他県より復興関連での長期滞在者が多く、宿泊先の確保が困難
  - 寝袋持参で当診療所に宿泊したり、ケア付き仮設住宅に宿泊



在宅医療連携拠点事業活動報告 石巻市立病院附属診療所 在宅医療連携拠点事業所 7

### 講演・講師活動

- 在宅医療推進活動

講演タイトル	主催
在宅での働き方	家庭医療実習セミナー
安全と安心の地域医療を守るために	JJA 鹿野尾圭通佐久総合病院
地域リハビリについて	宮城県医師会連理推進委員会
「日本における多職種連携による地域医療格差の顕在と工夫」	日本保健医療福祉連携教育学会
地域包括ケアのまちづくり	さわやか福祉財団
地域医療を通して石巻の再生を目指す	日本の医療を守る市民の会
がんの病診連携と在宅での働き方	石巻がん医療セミナー
地域包括ケアについて	さわやか福祉財団
地域の訪問診療について	若手東立萬田病院
病院・施設・在宅の働き方	宮城県連田郡幕谷町
多職種連携による地域ケア連携の取組	宮城県医師会社会政策課
被災地石巻での活動	秋田県海上・南秋ケアネット 小浜医院
石巻における地域医療の課題と今後の展望	東北専大

ほか、多数あり

在宅医療連携拠点事業活動報告 石巻市立病院附属診療所 在宅医療連携拠点事業所 8

## 2 拠点事業立ち上げについて

拠点事業に申請する時点から、社会福祉士および介護支援専門員の資格を持つ看護師を実務経験のある者と考え(県外を含めて)採用を検討するが、被災地でもあり採用に至らず、人材確保に苦慮した。

平成 24 年 8 月 1 日より、長医師のほか石巻市立病院職員で上記資格を有する看護師 2 名を企画調整担当、病院局職員 1 名を予算管理担当に配置することで、事業計画作成に取り掛かることとなった。

立ち上げに際して、今後の拠点事業活動に対する理解・協力を得るため、厚生労働省補助事業「在宅医療連携拠点事業」についての文書を持参し、医師会・

病院・介護事業所・在宅診療を行っている診療所等を訪問した。

## 3 拠点事業での取り組みについて

### (1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

アンケート形式で医療機関・地域包括支援センター・介護事業所等へ施設情報を確認し、資源マップの作成を行うとともに、在宅医療への対応状況や利用者の受け入れ状況等を伺い、在宅医療連携ガイド作成のための情報収集を行った。

また、多職種連携の課題や勉強会に対するニーズもアンケートに加えて調査し、今後の研修会を開催する上での参考とした。

### 概要

- アンケートの目的
  - 地域の医療介護資源を把握し、異なる施設に所属する多職種の人たちの連携を推進する。また、在宅医療や多職種連携の課題を抽出し、解決策を検討することで、今後の事業に反映させる。
- 調査期間
  - 平成24年9月8日(土)~9月17日(月)
- 調査対象
  - 石巻圏域の主な医療機関、介護サービス事業所等 348ヶ所
- 方法
  - 調査用紙郵送による質問紙法

在宅医療連携ガイド作成のアンケート結果報告 石巻市立病院附属診療所 在宅医療連携拠点事業所 2

### アンケート回収率

全体で60%

回収率	未回収	回収
全体	139 (40%)	209 (60%)
医療機関	45 (48%)	94 (48%)
事業所	90 (65%)	164 (65%)

医療機関より、介護サービス事業所からの回収率が高い！

在宅医療連携ガイド作成のアンケート結果報告 石巻市立病院附属診療所 在宅医療連携拠点事業所 3

これらの情報のうち、掲載可と返答のあった医療機関・介護事業所・および全ての地域包括支援センターを当事業所のホームページ(平成 25 年 3 月 1 日)上に掲載し、誰でも検索可能とした。

\* 石巻市立病院開成仮診療所ホームページ

URL <http://ishinomaki-zaitakurenkei.jp/>

**ホームページによる情報発信**

**ホームページ開設のお知らせ**  
 3月1日より開成仮診療所のホームページを公開しました。  
 (URL <http://ishinomaki-zaitakurenkei.jp/>)  
 ぜひ一展、ご覧ください。

在宅医療連携拠点事業活動報告 石巻市立病院開成仮診療所 在宅医療連携拠点事業報告 3

新設の介護事業所へもアンケートを実施し、また、情報に変更があれば随時更新を行っている。

**(2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の参加の仲介を含む。)**

既存する石巻地区在宅ホスピスケア連絡会(平成25年2月より石巻地区在宅ケア連絡会へと名称変更)へ出席し、長医師においてはコアメンバーとしての会の企画・運営にも携わることとなる。

その他、周辺地区の仮設住宅における会議を中心に、当診療所スタッフも参加。情報共有とともに、時にはオブザーバーとしての役割を担う。

地域ケア会議は開催されておらず、今後は開催に向けた支援が課題となる。

[参加している会議]

- ・稲井地区エリアミーティング
- ・保健コーディネーター会議
- ・自治会連合会会議
- ・開成ボランティア会議
- ・石巻地区在宅ケア連絡会
- ・リハビリテーション支援事業会議
- ・災害復興協議会会議

**被災地の特性を生かした支援**

■ 仮設住宅における各種会議へオブザーバーとして参加

会議名	頻度	当事業所からの参加者
稲井地区エリアミーティング	1回/月	医師・看護師・理学療法士・社会福祉士
保健コーディネーター会議	1回/月	医師・看護師・社会福祉士
自治会連合会会議	1回/月	医師・社会福祉士
開成ボランティア会議	1回/月	医師・理学療法士・社会福祉士
石巻地区在宅ケア連絡会	1回/1~2月	医師・看護師・社会福祉士
リハビリテーション支援事業会議	3回/年	理学療法士
災害復興協議会会議	1回/月	医師・社会福祉士

稲井地区エリアミーティング



**(3) 研修の実施**

アンケート結果をもとに、主な内容・研修の形式等を検討、多職種合同研修会の計画を立案した。

**アンケート結果**



研修会開催案内は、各事業所・病院の希望する方法(郵送・FAX・メール)にて送付。開業医の先生方に関しては医師会を通じて配布して頂いたが、他の研修・会議等との都合が合わない、診療時間内である、在宅医療に関心がない(アンケート結果より)等の理由もあり、数名のみの参加にとどまった。

## 多職種合同研修会の開催

- ・他施設の研修会との兼ね合い、アンケート結果をもとに計画
- ・多職種混合のグループワークや懇親会を織り交ぜて企画

回数	日程	主な内容	参加人数
第1回	10/27	地域包括ケアの推進について	99名
第2回	11/13	在宅における摂食嚥下・口腔ケアについて	124名
第3回	12/14	地域医療の連携 ～病院から診療所そして在宅へ	147名
第4回	3/9午前 3/9午後	中越地震での活動と地域包括ケアシステム 被災地での地域包括ケアと在宅医療連携点 事業の取り組み	46名 87名

在宅医療連携拠点事業活動報告

石巻市立病院特別診療所 在宅医療連携拠点事業所

5

研修会は知識を深める場にするとともに、多職種が意見交換・情報共有できる場を設け、『お互いの顔の見える関係作り』を図ることを目的とし、第1回では多職種合同のグループワーク、第3回では懇親会を織り交ぜて企画した。(報告書別途添付)

顔の見える関係作りには、講演形式よりもグループワーク形式の方が効果的であることは、研修会後のアンケート結果からも明らかになった。

### (4) 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

地域には24時間365日体制の診療所・介護事業所が少なく、まだ浸透していない。

第4回多職種合同研修会では、新潟県長岡市の事例を基に、被災者支援に取り組む中での地域包括ケアの具体的なイメージを講演頂くなど、地域包括ケアの推進に関する研修・講演活動を行っている。

平成25年4月からは、当診療所の医師の増員が決まっており、24時間365日の訪問診療体制の強化、他機関の在宅医療従事者に対する負担の軽減を図る計画である。

### (5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

長医師が、地域包括支援センター職員研修会や市内包括12事業所中4事業所合同による圏域包括ケア会議において講師を務めた。

その他としても、事業担当者自身が色々な企画に参加することで顔見知りとなり、研修の相談や共催がスムーズに行えるような関係作りを心掛けた。

市の介護保険課とケアマネジャーからの相談ではアドバイスを行うことで、『医療機関とケアマネジャーとの情報交換会』が開催されるに至った。

### (6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パースの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

市内の在宅医療クリニックにおいて、「在宅医療・介護情報連携推進事業(総務省管轄)」が進行中であり、富士通の支援による『在宅医療クラウド』の実証が行われているため、ICTによる情報管理・情報共有に対する取り組みは行わなかった。

そのため、当診療所周辺の仮設住宅を中心とした各種会議へ出席し、地域の課題や情報の共有を図り、関係者との連携強化に努めた。

現在、みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)による、地域医療連携システムの活用に向けた石巻医療圏の環境整備が行われているところであり、当診療所もこのシステムの利活用を決定した。

### (7) 地域住民への普及・啓発

平成25年1月25日に「これからの介護に備えて」と題し、市民向け講演会を開催。

県内(気仙沼)出身のフリーアナウンサー 生島ヒロシ氏が自身の介護体験談を交えて、介護と在宅医療についての講演を行い219名の参加があった。



## 地域住民への普及啓発

### ■ 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

#### ● 在宅医療に関する知識普及のためのフォーラム開催

「在宅医療連携拠点事業について」

講師：長 純一（石巻市立病院開設仮診療所 所長）

「これからの介護に備えて」

講師：生島ヒロシ氏

日時：平成25年1月25日(金) 13:30～

会場：石巻中央公民館ホール

参加人数：219人

その他、

新聞や雑誌への在宅医療に関する

記事の掲載、テレビ取材等 多数あり！

さらに今年度は、

市報のコラム欄への掲載を予定。



を築く良い機会となった。

各職種の相互理解も深まり、その後の相談や紹介へも結びついている。

電子端末等を使用した情報共有は効率的であり、今後の在宅医療・介護には欠かせないツールとなりつつあるが、多職種間での連携という点では、研修会や懇親会等を通じて、顔の見える関係を保つことも重要である。

## 6 苦労した点、うまくいかなかった点

研修等を行う上で開催日時の設定に苦労した。多職種合同でもあり、アンケートによる開催日時に対する希望は多様であった。

講師の都合もあり、結果的には平日・休日・日中・夜間と、開催日時は一定ではなかったが、予想以上の参加者があった。

他機関主催の研修や会議と重なることもあり、都合がつかず不参加であった事業所等からの連絡が入ることもあった。

できるだけ多くの希望者が参加できるようにするためには、他の機関での会議・研修等の把握、早い時期での計画・開催通知を徹底するほか、同じ内容で時間帯を変更し、2回開催するなどの計画も効果的であるとする。

## 7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

今後、在宅医療・介護連携に取り組むにあたっては事前に多職種代表による協議会・検討委員会等を立ち上げ進めていくことが望ましい形であると実感した。

多方面からの協力が得やすくなり、また、医療のみ、介護のみに偏らない意見を取り入れることが可能であるとする。

## 8 最後に

石巻においては、震災後の生活再建、メンタルヘル

## (8) 災害発生時の対応策

災害発生時に備え、以下の項目を実施。

- ・現在所有している発電機・担架・医療用品等の確認
- ・バッテリー駆動式ポータブル吸引器の購入
- ・衛星電話の購入

## 4 特に独創的だと思う取り組み

石巻は東日本大震災で壊滅的な被害を受け、当仮診療所は1800世帯の東北最大の仮設住宅支援のため開設され、厚生労働大臣の視察も受けた。

メンタルケアや生活不活発発病の予防等の仮設支援(保健活動)を行うほか、仮設住宅に関連する各種会議や、またボランティアや被災者との情報交換も密に行っている。その中で、時にはオブザーバー的役割を担うこともある。

コミュニティ形成もままならないこの地区において、情報の共有・顔の見える関係・連携は通常以上に重要であり、今後も継続していく考えである。

## 5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

タスクの中で必須とされていた多職種合同研修会や講演会等の開催によって、直接集う機会が増え、特にグループワーク形式の研修においては、在宅医療・介護に関する知識の習得はもとより、顔の見える関係

スケア等、まだまだ課題が多い状況だが、在宅医療連携拠点事業所として在宅医療の推進、多職種連携に取り組んできた。

地域包括ケアや多職種協働の理念を広めることは重要であり、今後の石巻の復興を考える上でも有意義な活動であったと考える。

別添:研修会報告書

#### 第1回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告

日時:平成24年10月27日(金)13時30分～16時10分

場所:石巻合同庁舎 5階 大会議室

目的:地域の在宅医療に関わる多職種が一堂に会する場を設け、地域における連携上の課題の抽出と地域包括ケアへの理解を深める。

主催:石巻市立病院開成仮診療所

共催:宮城県東部保健福祉事務所

対象者:石巻市内の行政関係者、医療関係者、福祉関係者、ケアマネジャー他

参加人数:99人(別紙参加者名簿実績参照)

プログラム

1 開会

2 あいさつ 石巻市立病院 伊勢 秀雄

3 研修

(1) 在宅医療と在宅医療連携拠点事業について  
石巻市立病院開成仮診療所 内科部長 長 純一

(2)「在宅医療連携ガイド作成に関するアンケート調査」結果報告

石巻市立病院開成仮診療所 在宅医療連携拠点事業担当 安達 祥子

(3)意見交換

「石巻における多職種連携の課題」について  
発表 7グループ(別紙報告)

(4)講演「地域包括ケアの推進について」

講師 厚生労働省老健局振興課 地域包括ケア推進係 係長 山田 大輔

(5)意見交換

「多職種連携の課題に対する解決策」について  
発表 4グループ(別紙報告)

(6)アンケート記入(別紙報告)

(7)まとめ

石巻赤十字病院 緩和医療科部長 日下 潔

東部保健福祉事務所 副所長 村上 靖

石巻市立病院開成仮診療所 内科部長 長 純一

4 閉会

#### 第2回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告

日時:平成24年11月13日(火)18時00分～20時00分

場所:石巻専修大学 4号館4202教室

目的:地域の在宅医療、介護従事者等の多職種が研修会を通じて口腔ケアの知識を深める。

また、多職種が意見交換、情報共有できる場を設け、お互いの顔の見える関係作りを図る。

主催:石巻市立病院開成仮診療所

対象者:石巻市内の行政関係者、医療関係者、福祉関係者、ケアマネジャー他

参加人数:124人(別紙参加者名簿実績参照)

プログラム

1 開会

2 あいさつ 石巻市立病院長 伊勢 秀雄

3 「在宅医療連携拠点事業について」

石巻市立病院開成仮診療所 在宅医療連携拠点事業担当 安達 祥子

4 報告「仮設住宅での歯科口腔保健事業について」

西條 広子

(石巻市健康部 健康推進課 技術課長補佐)

5 講演「在宅における摂食嚥下・口腔ケアについて」

講師 牛山 京子

(広島大学歯学部非常勤講師 九州歯科大学口腔保健学科、山梨県歯科衛生専門学校ほか非常勤講師 山梨県歯科衛生士会監事)

6 質疑応答

7 アンケート記入

8 おわりに 宮城県歯科医師会副会長 山本 壽一  
石巻市立病院開成仮診療所 長 純一

9 閉会

第3回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告

日時：平成24年12月14日(金)18時30分～21時00分

場所：石巻グランドホテル 天翔の間

目的：地域の在宅医療、介護従事者等の多職種が研修会を通じて地域医療連携の基本知識を学ぶ。また、多職種が意見交換、情報共有できる場を設け、お互いの顔の見える関係作りを図る。

共催 石巻市立病院開成仮診療所

医療法人啓仁会石巻ロイヤル病院

石巻地域連携実務者ネットワーク

対象者：石巻市内の行政関係者、医療関係者、福祉関係者、ケアマネージャー他

参加人数：147人

プログラム

1 開会

2 あいさつ 石巻市立病院開成仮診療所長 長純一

3 報告「石巻における地域連携の課題と今後」

石巻市立病院開成仮診療所所長 長 純一

4 基調講演「地域医療連携の基本姿勢」

講師 前沢 政次氏

(北海道大学名誉教授 ひまわりクリニックきょうごく所長)

座長 石巻ロイヤル病院副院長(地域連携室長)

石橋清人氏

5 ディスカッション

「石巻地域医療連携の現在と未来」

パネリスト 前沢 政次氏(北海道大学名誉教授 ひまわりクリニックきょうごく所長)

石橋 悟氏(石巻赤十字病院救命救急センター長)

佐藤 保生氏(診療所在宅医療院長)

長 純一(石巻市立病院開成仮診療所長)

座長 石巻ロイヤル病院副院長(地域連携室長)

石橋清人氏

6 懇親会

第4回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告

日時：平成25年 3月 9日(土)10時00分～15時00分

場所：宮城県石巻合同庁舎 5階 大会議室

目的：諸外国に例をみないスピードで高齢化が進展しているわが国において、高齢者ができる限り住み慣れた地域での生活の継続を支援するためには、適切なサービス、多様な支援を提供することが必要である。そのためには、保健・福祉・医療の専門職相互の連携、地域のインフォーマルな資源を統合、ネットワーク化し、高齢者を包括的・継続的にケアする必要がある。また、それらを適切に提供できる体制づくりが必要であることから、地域包括ケアシステムへの理解を深めるため開催する。

主催：石巻市立病院開成仮診療所

共催：宮城県東部保健福祉事務所

対象者：石巻市内の行政関係者、医療関係者、介護・福祉関係者、ケアマネージャー他

参加人数：午前の部46人 午後の部87人

プログラム

午前の部(10:00～11:30)

1 開会

2 開会のあいさつ

石巻市病院局事務部長 鷲見 祐一

3 講演「中越地震での活動と地域包括ケアシステム」

講師：

高齢者総合ケアセンターこぶし園(在宅医療連携拠点事業所)総合施設長

認定NPO 法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード 代表理事

地域包括ケアの町への復興応援団 発起人

小山 剛 氏

4 質疑応答

5 閉会のあいさつ

宮城県東部保健福祉事務所副所長 村上 靖

6 閉会

午後の部 (13:30～15:00)

1 開会

2 開会のあいさつ

石巻市病院局事務部長 鷲見 祐一 祐一

3 講演「被災地での地域包括ケアと在宅医療連携  
拠点事業」

講師:

高齢者総合ケアセンターこぶし園(在宅医療連携拠  
点事業所)総合施設長

認定 NPO 法人災害福祉広域支援ネットワーク・サン  
ダーバード 代表理事

地域包括ケアの町への復興応援団 発起人

小山 剛 氏

4 質疑応答

5 閉会のあいさつ

宮城県東部保健福祉事務所副所長 村上 靖

6 閉会